

I キャリア教育の基本的な考え方

1 キャリア教育のねらい

児童生徒の社会的自立に求められる資質・能力をはぐくむ

頑張らなくてもどうにか生きていけるという風潮のある現在の社会環境に身を置く児童生徒に対して、変化の激しい、予測のつかないこれからの社会の中で、明るくたくましい人生を歩んでいけるよう、時代に適応するために必要となる実際的な力を身に付けさせ、自らの立場や役割を適切に果たしていけるようにする。

※ キャリア

一人一人が生涯の中で果たさなければならない、あるいは、果たすことが期待されている立場や役割の組合せとその積重なりであり、同時に、それらを適切に果たすことの意味や価値を考えながら、常に自分の在り方を見直し、成長させていく過程のこと。

2 キャリア教育の背景

(1) キャリア教育等推進プランの指摘

- 経済構造の変化や雇用形態の多様化等を背景に、非正規雇用の増大等若者の進学・就職をめぐる環境が大きく変化してきている。
- 早期離職する若者や進学も就職も決まらないまま卒業する若者の存在が問題となっている。
- 青少年が自らの個性や適性を自覚し、主体的に進路を選択し、社会的自立を果たしていく必要性が顕在化している。

(2) 中教審答申(H20.1)にあるキャリア教育関連の記述

- 「生きる力」という考え方は、社会において子どもたちに必要となる力をまず明確にし、そこから教育の在り方を改善するという視点を重視している。近年の産業・経済の構造的な変化や雇用の多様化・流動化等を背景として、就職・進学を問わず子どもたちの進路をめぐる環境は大きく変化している。このような変化の中で、将来子どもたちが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくためには、子どもたち一人一人の勤労観・職業観を育てるキャリア教育を充実する必要がある。
- 他方、特に、非正規雇用者が増加するといった雇用環境の変化や「大学全入時代」が到来する中、子どもたちが将来に不安を感じたり、学校での学習に自分の将来との関係で意義が見出せずに、学習意欲が低下し、学習習慣が確立しないといった状況が見られる。さらに、勤労観・職業観の希薄化、フリーター志向の広まり、いわゆるニートと呼ばれる若者の存在が社会問題化している。
- これらを踏まえ、現在においても、
 - ・ 中・高等学校における進路指導の改善
 - ・ 職場体験活動、就業体験活動等の職業や進路に関する体験活動の推進などの取組を行っているところであるが、今後更に、子どもたちの発達の段階に応じて、学校の教育活動全体を通じた組織的・系統的なキャリア教育の充実に取り組む必要がある。

すなわち、生活や社会、職業や仕事との関連を重視して、特別活動や総合的な学習の時間をはじめとした各教科等の特質に応じた学習が行われる必要がある。特に、学ぶことや働くこと、生きることを実感させ将来について考えさせる体験活動は重要であり、それが子どもたちが自らの将来について夢やあこがれをもつことにつながる。

具体的には、例えば、

- ・ 特別活動における望ましい勤労観・職業観の育成の重視
- ・ 総合的な学習の時間、社会科、特別活動における、小学校での職場見学、中学校での職場体験活動、高等学校での就業体験活動等を通じた体系的な指導の推進などを図る必要がある。

※ 下線部は、教育課程編成上のポイント。

3 キャリア教育で目指す児童生徒像

なりたい自分を見付け、その実現のために努力していける児童生徒

(1) 学校段階別に見た職業的（進路）発達段階、職業的（進路）発達課題

小学校段階	中学校段階	高等学校段階
＜職業的（進路）発達段階＞		
進路の探索・選択にかかる 基盤形成の時期	現実的探索と暫定的選択の 時期	現実的探索・試行と社会的 移行準備の時期
＜職業的（進路）発達課題＞		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己及び他者への積極的 関心の形成・発展 ・ 身のまわりの仕事や環境 への関心・意欲の向上 ・ 夢や希望、憧れる自己イ メージの獲得 ・ 勤労を重んじ目標に向 かって努力する態度の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 肯定的自己理解と自己有用 感の獲得 ・ 興味・関心等に基づく職業 観・勤労観の形成 ・ 進路計画の立案と暫定的選 択 ・ 生き方や進路に関する現実 的探索 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己理解の深化と自己受容 感の獲得 ・ 選択基準としての職業観・ 勤労観の確立 ・ 将来設計の立案と社会的移 行の準備 ・ 進路の現実吟味と試行的参 加

(国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」から)

(2) 小学校段階におけるキャリア発達の特徴

低学年	中学年	高学年
学校への適応	友達づくり 集団の結束力づくり	集団の中での役割の自覚 中学校への心の準備
<ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつや返事をする。 ・ 友達と仲良く遊び、 助け合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のよいところを見付 けるとともに、友達のよい ところを認め、励まし合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の長所や短所に気付き、自 分らしさを発揮する。 ・ 異年齢集団の活動に進んで参加 し、役割と責任を果たそうとする。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近で働く人々の 様子が分かり、興味・ 関心を持つ。 ・ 係や当番の活動に 取り組み、それらの 大切さが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな職業や生き方 があることが分かる。 ・ 係や当番活動に積極的 にかかわり、働くことの楽し さが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な産業・職業の様子やその 変化が分かる。 ・ 自分に必要な情報を探す。 ・ 施設・職場見学等を通し、働く ことの大切さや苦労が分かる。 ・ 学んだり体験したりしたこと と、生活や職業との関連を考える。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 家の手伝いや割り 当てられた仕事・役 割の必要性が分かる。 ・ 作業の準備や片付 けをする。 ・ 決められた時間や きまりを守ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 互いの役割や役割分担の 必要性が分かる。 ・ 日常の生活や学習と将来 の生き方との関係に気付く。 ・ 将来の夢や希望をもつ。 ・ 計画づくりの必要性に気 付き、作業の手順が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会生活にはいろいろな役割が あることやその大切さが分かる。 ・ 仕事における役割の関連性や変 化に気付く。 ・ 憧れとする職業をもち、今しな ければならぬことを考える。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の好きなもの や大切なものをもつ。 ・ 自分のことは自分 で行おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のやりたいこと、よ いと思うことなどを考え進 んで取り組む。 ・ 自分の仕事に対して責任 を感じ、最後までやり通そ うとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の仕事に対して責任をも ち、見つけた課題を自分の力 で解決しようとする。 ・ 将来の夢や希望をもち、実現 を目指して努力しようとする。

(3) 中学校段階におけるキャリア発達の特徴

1年	2年	3年
<ul style="list-style-type: none"> 自分の良さや個性が分かる。 自己と他者の違いに気づき、尊重しようとする反面、自己否定などの悩みが生じる。 集団の一員としての役割を理解し、それを果たそうとする。 将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解しようとする。 学習の過程を振り返り、次の選択場面に生かそうとする。 将来に対する漠然とした夢や憧れを抱いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の言動が、他者に及ぼす影響について理解する。 社会の一員としての自覚が芽生えるとともに、社会や大人を客観的にとらえるようになる。 体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。 よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見出していくことの大切さを理解する。 将来への夢を達成する上での現実の問題に直面し、模索する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己と他者の個性を尊重し、人間関係を円滑に進めようとする。 社会の一員としての参加には義務と責任が伴うことを理解する。 係・委員会活動や職場体験等で得たことを、以後の学習や進路の選択に生かそうとする。 課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。 将来設計を達成するための困難を理解し、それを克服するための努力に向かう。

(4) 高等学校段階におけるキャリア発達の特徴

入学	卒業
<ul style="list-style-type: none"> 新しい環境に適応するとともに、他者との望ましい人間関係を構築する。 新たな環境の中で自らの役割を自覚し、積極的に役割を果たす。 学習活動を通して自らの勤労観、職業観について価値観形成を図る。 様々な情報を収集し、それに基づいて自分の将来について暫定的に決定する。 進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し、検討する。 将来設計を立案し、今取り組むべき学習や活動を理解し実行に移す。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者の価値観や個性を理解し、自分との差異を認めつつ受容する。 卒業後の進路について多面的多角的に情報を集め、検討する。 自分の能力・適性を的確に判断し、自らの将来設計に基づいて、高校卒業後の進路について決定する。 進路実現のために今取り組むべき課題は何かを考え、実行に移す。 理想と現実との葛藤や経験等を通し、様々な困難を克服するスキルを身に付ける。

4 キャリア教育の視点

児童生徒に、「なりたい自分を見つけ、その実現のために努力していく力」をはぐくむ

そのため、教育課程の中に

児童生徒が

- ① なりたい自分を見付ける、なりたい自分に気付くきっかけをつくる。
- ② なりたい自分を成長させる場面をつくる。 ↓
→社会体験、自然体験（主に総合的な学習の時間）
- ③ なりたい自分を実現するため、自分自身を成長させる過程をつくる。
→各教科、道徳、特別活動

その中で

教師は

- ① 児童生徒が見付けた目標や、目標に向けた成長の状況を適切に把握しながら、
- ② 他の教員と児童生徒の個別の情報を共有しつつ、
- ③ 個に応じた指導の充実を図る。

II キャリア教育推進に必要な教育活動

1 社会体験や自然体験

児童生徒が「なりたい自分」（生き方，働き方に関する目標）を見付けたり，潜在的に抱いている目標を明確に意識したりできるようにする。

生き方に関する願い（この人のように生きたい，社会の中でこのような役割を果たせるようになりたい）や，目標（どのような職業に就くことがよいのか，どのような能力を身に付けなければならないのか）を，児童生徒が発達段階に応じて，明確にもてるようにするためには，体験だけでなく，働いている大人の思いに直接触れることができる場面設定が重要である。

(1) 小学校における体験活動

ア ねらい

「大きくなったら何になりたいか?」, 「どんな人になりたいか?」というような「夢」, 「希望」, 「あこがれ」をもち，児童が自らの将来の生き方について考えることができるようにする。

イ 留意点

- ・ 家庭，学校，地域の一員として役割を果たすことなどを通して，自分のよさや得意分野に気づき，それを生かそうとする意欲や態度をもつことができるようにする。
- ・ 職場や施設の見学等，職業に対する基礎的な知識・理解を得ることなどができるようにする。
- ・ 卒業後の中学校生活における新しい環境や人間関係についての理解や心構えをもつことができるようにする。

ウ キャリア教育にかかわる体験活動の例

	キャリア教育と関連が深い体験活動	職業に直接かかわる体験活動
特別活動	○ 係活動 ○ 清掃活動 ○ 給食に関する活動 ○ 委員会活動，児童会活動 ○ 異学年による縦割り活動 ○ 高校生との交流，中学校見学 等	● 酪農体験等を組み込んだ宿泊学習 ● 職場見学等を主体とした修学旅行 等
総合的な学習の時間	○ 留学生との交流 ○ 地域の環境調査 ○ アイマスク・車いす体験 ○ 特別養護施設の訪問や特別支援学校との交流 ○ 幼稚園，保育所との交流 ○ 地域の伝統を学ぶ 等	● 校区の職場見学 ● あこがれの仕事調べ ● 農業体験 ● 地域の特産品づくり ● 商店でのお手伝い ● 地域の名人に学ぶ ● 地域のお年寄りに学ぶ ● 地域の芸術家に学ぶ ● 身近な人の職業から学ぶ 等
教科	○ 校区の探検（生活科） ○ 栽培活動（生活科） ○ 家族調べ（生活科） ○ 幼稚園，保育所訪問（生活科） 等	● 工場や農家の見学（社会科） ● テレビ局の見学（社会科） ● 消防署，警察署見学（社会科） ● お店調べ（社会科） ● 郵便局，図書館，市役所等の見学（生活科） 等

(2) 中学校における体験活動

ア ねらい

生徒一人一人が自分独自の内面の世界があることに気付き、個性の発見・伸長を図り自立心を養いながら、社会への視野を広げつつ、自己と社会を結び付けていけるようにする。

イ 留意点

- ・ ①自分のよさや得意分野を理解する、②能力・適性、価値観等についての基本的・総合的な理解を深める、③働くことの厳しさや喜びを体得しながら職業の世界についての理解を深める、④仕事や勉学などについて探索活動を行う方法などを理解する、ことなどができるようにする。
- ・ 就職、進学することの意味を考え、自覚をもって進路を選択することができるようにする。

ウ キャリア教育にかかわる体験活動の例

